

令和6年度 第4回益城町子ども・子育て会議（要旨）

日 時 令和6年12月6日（金）19：00～20：30

場 所 益城町庁舎2階 会議室2-4・5・6

出席者 委員会：今吉会長、吉村委員、荒木委員、池田委員、梅木委員、平城委員、岩本委員、田口委員、中路委員、松本委員、谷川委員、白石委員

益城町：こども未来課 吉住課長、村上係長、江崎係長、松本主査、山田主査

（計画策定業務委託事業者）株式会社サーベイリサーチセンター

欠席者 福山委員、藤井委員

◆ 概要

◇ 開会

◇ 会長あいさつ

◇ 議事の公開について（審議）

- 傍聴者1名。
- 後日、会議要旨を町ホームページで公開。

◇ 議事

（1）計画書の骨子案と現計画の評価について（審議）

- 事務局）資料を用いて説明。
- 会長）骨子案にスクールカウンセラーという専門職名があるが、今、教育事務所に配置しているのはスクールソーシャルワーカーではないか。
 - 事務局）担当課に確認した上で正しい表記にする。
- 委員）アンケート結果から抽出しているデータについて、可能であれば、第2期計画策定時と比較してみることができれば良いのではないかと。
 - 事務局）第2期計画書に掲載しているアンケート結果をと比較し、有意な差が見受けられれば、記入させていただく。

（2）計画の基本理念（案）について（審議）

- 事務局）資料を用いて説明。3つの案のうち、案①と案②を合わせた案③「未来を担うこども・若者が健やかに育ち尊重され活躍するまち、子育て世代が安心できるまち、こども豊かな益城町」が良いと考えている。
- 会長）小学校低学年の子どもたちが「尊重」といった言葉が理解できるかといったところも考える必要がある。他、特にご意見無ければ、案③で進めたいがどうか。
 - 全委員）異議なし。

(3) 人口推計、量の見込み・確保方策について（審議）

- 事務局）資料を用いて説明。
 - 会長）新規事業の予算措置は、こども家庭庁が負担するのか
 - 事務局）事業によって割合は変わるが、基本的には補助金により、国、都道府県、町で3分の1ずつ負担するようになっている。
 - 会長）新規事業を行う際には、手を挙げる事業所があるかどうかを考えなくてはならない。事業内容を周知する広報等コマーシャル活動も行っていく必要がある。
- 会長1ページ、2ページの「教育・保育」についてご意見あるか。
- 委員）幼稚園の利用者数はやはり年々減ってきており、利用者が集まらないという課題がある。
 - 会長）全国的に幼稚園利用者は減少傾向にあり、小規模自治体では民間に移譲して認定こども園を設置する動きが進んでいる。幼稚園経営で比較的成功しているところは、都市部の幼稚園から高校までの一貫教育を提供する施設である。幼稚園利用者の減少は、時代の流れと幼児教育の無償化による影響が大きい。保育所と比べ、預かり時間が短いことや夏休みや春休みがあるという違いもある。
 - 事務局）幼稚園の利用者の確保は非常に難しいという現実がある。2歳児の時点で、保育施設等を利用していないのは40名程度である。
 - 会長）将来は幼稚園も複式学級化しないといけないのではないか。
- 委員）保育所の充実、子どもを預ける場所の充実も大事だが、やはり家庭的保育のような家庭での子どもとの関わりや家族間での支え合いが一番大切だと感じている。子どもが必要とすることを考えることも重要だと考える。こどもまんなかの考え方として「こどもたちにとって」というものを考えたときに、国の施策を見ても、現状が見えていないと感じる。こども家庭庁を作ったと言っても、何を行っているのかがピンと来ていない部分がある。
 - 会長）今の国の児童福祉の考え方は、子どもは地域全体で支えていくべきという考え方。行政としては、ハード・ソフト両面での整備が必要。また、本計画のようにこども中心のまちを作るという計画を出し、取り組んでいくことが重要。
- 会長）3ページ、4ページ目の「放課後児童健全育成事業」についてご意見があるか。具体的には広安校区で放課後児童クラブを増やすのか。
 - 事務局）町の開発とかを考えて、まず広安西、続いて広安の可能性があると考えている。
- 委員）令和7年度に広安西小学校に1クラブ増えるということか。
 - 事務局）可能性としてということで、まだ7年度に確定ではない。早ければ7年度に着手したいが、現場の感覚的には令和8年度になるのではと思っている。
 - 委員）先生が慢性的に不足しているというもあるが、物理的（教室の広さ）に定員超過ではないか。また、広安西と広安の他に、飯野小も学童だけでは広さが足りないときがあり、学校の空き教室を使っている。検討いただけるとありがたい。
 - 事務局）飯野小についても、今後も移住の見込みなどを考えて、新しい建物、そういったものが必要かどうかも含めて検討をしていく。
- 会長）例えば保育所の先生方で卒園生の保護者から保育所に預けたいと言ったニーズはあるか。

- 委員) 2年前ぐらいから保育所で放課後の預かりをしてくれませんかという要望が上がっている。様々な校区の利用者があり、在園児のきょうだいについては、夏休みだけでも受け入れは可能ではないかと思う。うちの保育所は異年齢での預かりであるため、同学年でないとできないというわけではない。
- 会長) 保育所で学童を引き受けている事例は、他自治体でもあるのか。
 - 事務局) 他自治体でも受入れをしている園は結構ある。町としても新しい建物を建てるのではなく、保育所等で学童の受入が可能な施設があれば児童の受け皿として検討したい。昨今、問題になっている小1の壁の解消にもつながると思っている。今後、早い段階で、各園の意向を確認したいと考えている。また、園によっては送迎をしてもいいとおっしゃっているところもあり、今校区外の生徒も学童を利用できれば良いと考えている。
- 会長) 例えば、その園によって送迎をするとなれば、町のコミュニティーバスなどは利用可能か。
 - 事務局) 庁舎内での調整が必要。
 - 会長) 小学校と保育所が離れていると送迎はどうしてもネックになる。
 - 事務局) 子どもだけで校区外に行ってはいけないというルールがある。児童館の利用の面でも課題となっているため、校区外でも児童クラブとか児童館は行っても良い等の調整を行えればと思っている。
 - 会長) 小学生はバスに乗れるのではないか。保育所からも何名ぐらいまでだったらやりますよといったような情報があれば、ぜひ町のほうにいただきたい。
- 会長) 次に、5ページ、7ページ目の「地域子育て支援拠点事業」について、意見をいただきたい。
 - 委員) ショートステイに関して、まず乳児院に関してはほぼほぼ埋まる。定員が空くことはまずなく、乳児のショートステイが一番厳しいと思う。児童養護施設も、地域小規模化が進み、大きい施設をだんだん小さくして家庭的にする流れで、そもそもの定員が今はかなり減っている。また、ショートステイよりも、今優先されるのは一時保護である。虐待を受けた子たちが児童相談所に保護され、その一時保護所が満床で、児童養護施設等に委託をするという事業が優先されているような現状である。そのため、施設数を4から5に増やしたとしても、多分難しいだろう。そういうことを他県や熊本市ではショートステイ専用の事業開始の為の予算編成に努めていると聞いたことがある。
 - 会長) 虐待への対応が優先で、ショートステイ等のニーズがあるところは、やはり家族・親戚あたりをお願いしているといったような現状。
- 委員) ショートステイの施設数を増やすことについて具体的に決まっているものはあるか。
 - 事務局) こちらから事業所へアプローチできておらず、不透明なところではある。ご意見の通り、空きがないため、委託後にすぐに枠が確保できるかという点、かなり難しい。
- 会長) どうしてもファミリーサポートセンターの協力会員は少ない現状になっている。何か要因はあるか。
 - 事務局) 近隣市町村では、他の事業で関わりのある人が会員になっていただくことが多いようだ。益城町でも、様々な事業で関わっている人に声をかけていくしかない。また、自宅での預かりに抵抗があるという課題があり、公の支援拠点などで預かることができれば、預かる側も預ける側も安心ではないかと思う。まずは、預けられる、預かることができるような環境づくりを考えている。

- 会長) 協力会員が活動しやすい状況をつくり上げていくことは行政でもできると思う。どこかの公的な機関を使って、そこに協力会員さんが家から通い、子どもさんを見ているなど、そのような状況が一番いいと思う。
- 委員) ファミリーサポートセンターを行う際の金額が安く、協力会員を増やしたいのであれば、金額は考え直したほうがいいと思う。また、保育施設では、お迎えに急いで来られる方もおり、そういった方へのニーズはあるのではないか。保育施設の職員が、閉園後に協力会員として、子どもを見ていくなど、そういった保育施設で協力体制ができればよいのではないか。
- 会長) 協力会員は、町はどんな形で募集しているのか。
 - 事務局) 広報をしたりチラシを配ったりしている。
 - 会長) 例えば、保育所とかの掲示板などで広報すると良いのではないか。
- 委員) 顔が分かっている人であれば預けやすい、広報などに写真を載せることは可能か。
 - 会長) それは難しい面がある。登録会員を紹介しますという形でどこかの会場でできて、希望なさる方は、協力会員をお願いするなどは考えられる。
- 委員) ファミリーサポートセンターがあるということ自体を知らない家庭が多いため、小学校などが紹介してくれたほうが良いのではないか。
 - 会長) 協力会員については、増やす努力をしていかななくてはいけない。
 - 事務局) 来年、拠点を移す地域共生センターの活用も考えつつ、広報の仕方や募集の仕方は検討していく。また、保育士など、園の終わった後のダブルワーク的な方法も皆さんへ相談しながら検討させていただく。

(4) その他

- 事務局) 第5回会議は1月10日(金)の10時から開催。第6回会議は2月28日(金)の10時から開催を予定。

◇ 閉会